

スローガン

- ・ みんなであそぼう！ おおきくならろう！  
     遊べる子どもになろう  
     豊かな体験  
     生きる喜びを

1. 教育理念

- ・ 人と人がかかわって豊かな遊びが発展していく環境を作る。
- ・ 子供の主体性や感性、知性そして人間性を育む教育の実践

2. 教育目標

- ・ ひとりひとりの個性を大切にしながら、明るく生き生きとした子どもの育成に努めます。
- ・ 基本的な生活習慣、態度を育て健康で丈夫な身体をつくります。
- ・ 自分で考えて行動できる力を養います。
- ・ 人との関わりの中で社会性、協調性を養います。
- ・ さまざまな体験を通して豊かな感性、創造性を育てます。

3. 教育方針

- ・ 子どもにとって良い環境を整え、明るく伸び伸びとした集団生活を営ませます。
- ・ ひとりひとりの子どもの発達段階に応じた保育を行います。
- ・ 様々な人や物も出来事と出会い、興味や関心を大切に、意欲や思いやりのある子どもを育てます。

4. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

- ・ 10の姿をより意識した活動を展開する
- ・ 遊びの環境
- ・ 異年齢・同年齢交流
- ・ ICT化

5. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
10の姿をより意識した活動を展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程、月ごとのねらいや内容を理解し、10の姿と関連付けて保育計画が立てられ、進めていけるようにする。</li> <li>・ 研究保育の指導案に当てはまる項目がわかるようにし、意識づける。</li> </ul>
遊びの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の取り組みの計画を立て、時季を逃さないようにする。</li> <li>・ 子どもが自ら遊びたくなるコーナーづくりなど環境構成を工夫する。</li> </ul>

<p>異年齢・ 同年齢交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他クラスや異年齢と触れ合うための工夫をしていく。</li> <li>・「なかよしデー」であえて異年齢が混ざって遊ぶ日を設け意図的にかかわれるようにしていく。</li> <li>・意図的なかかわりから、自然なかかわりへとつながるように見守る</li> <li>・ふれあいおみせやさんごっこなど未就園児や地域の方と交流できる場を設ける。</li> <li>・外遊びの時間を合わせる。</li> <li>・行事の取り組み、リトミック、体操など学年で取り組む。</li> </ul>
<p>I C T 化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムを理解し、業務の効率化を考える。</li> <li>・園の書類をデータ化していく。</li> <li>・保育に活用する。子どもに映像を見せたり、音を聞かせたり調べ物をしたりする。</li> <li>・保護者への発信のツールとして手紙を減らし、アプリやメールで知らせる。</li> <li>・ホームページのリニューアル、動画、写真の更新</li> </ul>

## 6. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案に10の姿がチェックできるような項目を入れたことで、より分かりやすくなった。</li> <li>・10の姿に意識がいき園の教育課程、月ごとのねらいに基づいた保育計画が立てられていたか、読み合わせるなどしてもう少し意識するべきだった。</li> <li>・生き物を育てたり、自然を取り入れたり、環境を整えることはできた。</li> <li>・園庭の花など見たり触れたり匂ったりして四季を感じ、かかわることができた。</li> <li>・農園で育てる植物の計画表を作れたので時期を逃さず植える意識は持てた。</li> <li>・園庭や保育室で遊び込んだり、遊びを深められるような環境を整えることができず、年中環境が変わらなかった。子どもが主体的にかかわれる環境を整えたい。また運動遊び、体幹を鍛えたり、体の使い方が身につけられたりする遊びやゲームが取り入れられるとよい。</li> <li>・「なかよしデー」で異年齢の交流がしっかりできた。また兄弟クラスを決めたことでお世話したり、園庭で自然と一緒に遊んだり、かかわる様子が増えた。</li> <li>・同学年交流も密にでき、他クラスのお友だちの名前も覚えるようになった。</li> <li>・ふれあいおみせやさんごっこで未就園児と関わる機会ももてた。</li> <li>・園の書類を電子化していきたいが、動画を撮影したり、指導案を書く程度にとどまってしまっている。</li> </ul>
--

## 7. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
教育課程や教育目標を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月初めには読み上げるなどして、各学年の取り組みの方向性を合わせたり、意識し保育計画が立てられるようにする。</li> </ul>
遊びの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが遊びを深められる環境を構成する。</li> <li>・遊びを提案したり、興味がわくような設定を整え、子どもが主体的にかかわり遊びが展開できるようにする。</li> <li>・季節の遊びがいつでもできるようにする。</li> <li>・運動ができ体幹が鍛えられ体の使い方が習得できるような遊具を整えたり、遊びやゲームを取り入れる。</li> </ul>
地域交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在園児の活動が見られる子育て支援を考える。</li> <li>・時期を考えて交流を計画する。</li> </ul>
I C T 化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムを業務や保育に活用していく。</li> </ul>

## 8. 学校関係者評価委員会の意見

- ・環境が整えられ、保育できている。
- ・行事のクオリティが高いがやりすぎではないか？
- ・認定こども園に移行するので目標等が当てはまらなくなる。

## 9. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。

